



教育実習生による座談会

6月3日～21日まで、8人の卒業生が教育実習を行いました(うち2人は14日まで)。

そこで、6人の教育実習生に「教育実習の感想」「中央中等にいたときと今の中央中等の違い」「これからの抱負」、

そして「あの頃の自分に伝えたいこと」を語っていただきました。

* ()内は在学大学と担当教科です。

—司会—

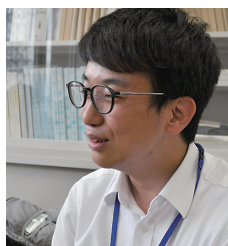
今回の実習はいかがでしたか

【阿部 夏己】 (明治大学・中学英語)



来る前は大変だと思っていたが、来てからは、だんだんと生徒との接点が増えてきて、それが力になっていきます。生徒のためになんばりたいと思います。

【金指 陽大】 (文教大学・中学社会)



生徒の興味を惹きつけるのが大変です。自分自身が中学の時、あまりがんばってはいなかったのですが、大学で頑張った成果を母校に見せたい、と思ってやってきました。あと1週間ありますので、生徒にもっと自分の経験とかを話したいです。

—司会—

中央中等で学んでいたときと今の中央中等の違いは感じましたか

【箱田】
理由はわかりませんが、生徒が落ち着いているなと思いました。まじめな生徒が多いです。

【北村】

中学2年生で、企業総合職とか学者とかを将来の目標にしている。将来のことを、具体的なビジョンで考えているんだなと思います。それと、授業の進め方がわかりました。先生ごとにオリジナリティーがあり、ひとりひとり全く違った授業です。様々な教材も使い、学びに対して興味を持たせようとしています。

【北村 憲吾】 (京都産業大学・中学社会)



率直に言って、大学生活が怠惰だと反省しました。教育実習の大変さばかりが先行して、押しつぶされそうです。でも、自分も大変ですが、先生方はやる事が本当にたくさんあって、もっと大変だなと感じました。

【藤井 結子】 (大阪大学・中学英語)



大変だとは聞いていたけれど、こなせると思つてやってきました。最初の1週間は、厳しくて、2週間目でだいぶなれました。

【高橋 陸哉】 (国土館大学・中学保健体育)



来る前から、大変だと思っていましたが、来た後は辛かったです。保健体育なので、暑い外にずっといることは、時間的にも肉体的にも大変でした。先生は1日中、活動しているので、すごいと思いました。

【箱田 成香】 (津田塾大学・中学英語)



母校に帰ってくるのが嬉しかったです。中央中等が以前とは変わっていったところもあるし、変わっていないところもありました。

【藤井】

パワーポイントで授業をするとか、自分がいたころとは授業が変わっています。私がいたころも、英語はアクティブラーニングでしたが、今はほかの科目でもアクティブラーニングを重視しています。生徒にとってはインパクトがあるのではないのでしょうか。それと、良くも悪くも成績にこだわる子が増えたように感じます。私がいた時は、ちょうど1～6年生すべての学年が揃ったときだったので、卒業生がいまありません。だから、卒業後の大学とかを意識して入学する子は少なかったように思います。いまは、進学実績を参考に入学してくるので、やはり卒業後の進路を意識してしまうのかもしれない。点数だけでなく

く、自分が何をしたいかが大事だと思います。

【高橋】

全体的に基礎体力が落ちています。男子に関しては、自分の代では、いろいろなスポーツをそつなくこなす人が多かったのですが、いまは、自分が普段しているスポーツ以外のものは苦勞しています。部活でも、運動部員が少なくなつてしまい、中等のスポーツは衰退してきているのが心配です。

【阿部】

各教科の連携が増えているように思います。例えば、英語と国語は言語で繋がっているんだよ、というように、成績としての学びではなく、生きた学びを教えているように感じます。

【金指】

私のころと比べ、生徒が自主的に学べるような、生徒が主役の授業が多くなりました。



—司会—

それでは、前期生だった時の自分、後期生だったときの自分に、今、どんなことを伝えたいですか。

【阿部】

私は中くらいの成績だったので自信がなく、先生からも関心をもたれていないと思っていました。でも、今回、先生は生徒一人ひとりを見ているのだとわかりました。一人ひとり良いところがあるのだから、もっと自信をもつていんだよ、もつと自分のことを認めてあげて、伝えたいです。

【箱田】

前期生だった頃、課題がたくさんありました。課題はこなすものではなく、学びとして定着させなければだめだよと伝えたいです。後期の時は、受験のための勉強となりましたが、大学に入って何をしたいのか、さらには大学の先まで見据えた勉強も必要だと思います。

【高橋】

前期の自分には英語を勉強しろ、と言いたい。英語は誰もが使うので、本当に必要なものです。そして、勉強が嫌いだつた後期の自分には、目標をもつて勉強をしろ、勉強すればやりたいことが実現するんだよ、と言いたいです。それと、やせろ！と言いたいです。

【藤井】

前期、後期ともに、あなたがやってきたことは間違っていないかつたよ、と伝えたいです。勉強することで、褒められたかつたかもしれない。でも、勉強をすることによって、大学だけでなく、将来の選択肢も増えたよ、今、とても思います。

【金指】

自分はこのようにいたころ勉強が嫌いでした。テストの点もひどく、そうなるよ、もつと勉強がつまらなくなるよという負のスパイラルに陥つてました。勉強はできなくても、勉強を楽しめ！です。もやもやでもよいので、将来を意識して、勉強してみたい。

【北村】

焦つて将来の目標を持たなくても、大学生活のなかで目標を持つこともできます。中等生の頃は、いろいろなことに興味を持つてほしいと思う。特に前期生の頃は、総合の授業などを通して、将来や、自分の人生にとって有意義なことを考える時間だと思います。

—司会—

これからの抱負を教えてください

【藤井】

英語でコミュニケーションがとれたことは、本当に楽しかった。英語の取得が目的ではなく、英語は外国の方とのコミュニケーションツールであり、外国文化を学ぶツールだということを、子ども達に伝えていきたい。私の授業を通じて、英語にはまる子を一人でも増やすことが、これから10年間の抱負です。

【高橋】

保健体育の観点から、生涯スポーツに触れていきたいと思つています。自分も続けていくけれど、ぜひ多くの人にスポーツをやつてほしい。スポーツには出会いがあります。それと、世界中のミルクティーを飲みたいですよ。

【金指】

地理、歴史、公民という基礎知識をもつて、社会に興味を持つてもらいたい。ニュースウォッチングもしてほしい。社会の勉強は、教科として学ぶというよりも、生きていくために必要だと思つています。自分も死ぬまで勉強しようと思つています。

【阿部】

イギリスの人から、私は英語だけしか話せないけど、英語も話せて日本語もできるのは強みだね、と言われました。英語が話せて、そのうえ日本語も話せることを武器に国際的に活躍したいです。



左から 司会・高橋さん 箱田さん 北村さん 藤井さん 高橋さん 阿部さん 金指さん

【北村】

自分の興味があることを、社会にどう生かしたらよいかを考え実行していきたいです。あと、世界中のコーヒー牛乳を制覇したい。

【箱田】

人種を問わず、多くの人と関わっていききたいです。その時に、英語で貢献できたらと思つています。例えば、外国人の労働者もたくさん日本に来ていますし、今回の教育実習も生徒と関わりあえました。

今回の座談会を通して、中央中等の先輩方が、卒業後それぞれの進学先で様々な経験を積み、成長を続けていることを感じました。

また、実習生のお話の中で、先生方の授業に対する熱意や工夫、特色ある授業展開の様子を垣間見ることができ、このような環境で子どもたちが学習できることを心強く思いました。

高橋 みつ子
(司会・広報委員会)

